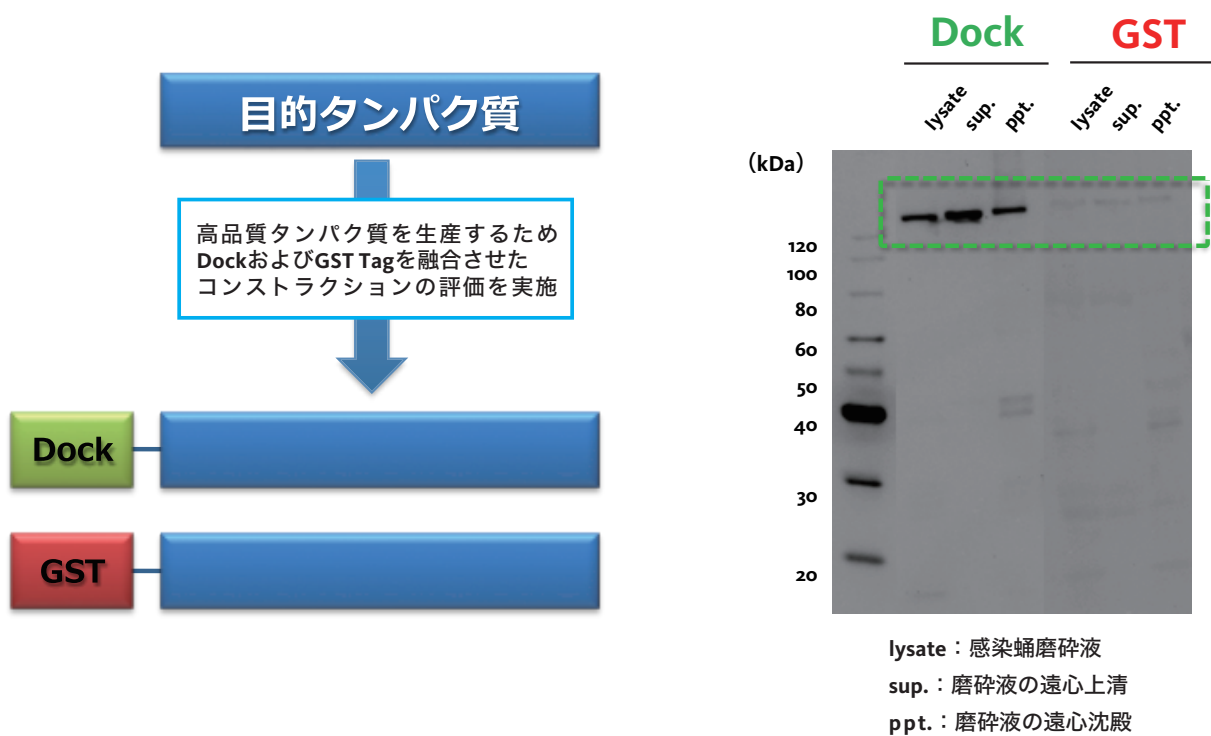


ProCube™ アプリケーションノート No.7

融合 Tag の違いによる発現量評価

近年、リコンビナント技術の発達により、タンパク質材料を大量に使用する研究が盛んになってきています。リコンビナントタンパク質を効率的に生産するために、Tag融合や部分発現（トランケート）など様々な工夫が行われます。ここでは、2種類のTag融合による発現量の違いについて示しており、今回用いた約130 kDaのタンパク質では、Dock Tag融合型において好成績を示しました。条件はタンパク質によって様々であるため、このようなタンパク質デザインをより多く検討することが重要です。



融合Tagの種類によって発現量は大きく異なる ⇒ より多くのコンストラクションの条件検討がキーポイント。

ProCube™ カイコ-バキュロウイルス発現系を用いたリコンビナントタンパク質生産サービス

Harness the Power of Nature



ProCube™ についての詳細は <http://procube.sysmex.co.jp/> メールでのお問合せは ... procube.japan@sysmex.co.jp

製造販売元

シスメックス株式会社

本社 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 〒651-0073
 テクノパーク 神戸市西区高塚台4-4-4 〒651-2271
 東京支社 東京都品川区大崎 1-2-2 〒141-0032

www.sysmex.co.jp



注：活動及びサイトの適用範囲は規格により異なります。
 詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。
 Notes : Scopes of sites and activities vary depending on the standard.
 For details, refer to the ID 0910589004 at www.tuv.com